

令和8年度 全国学力・学習状況調査 結果チャートの改善について

資料2-3

全国的な学力調査に
関する専門家会議
(令和7年度第7回)
2025年12月3日(水)
10:00~10:45

1. 結果チャートの見直し経緯

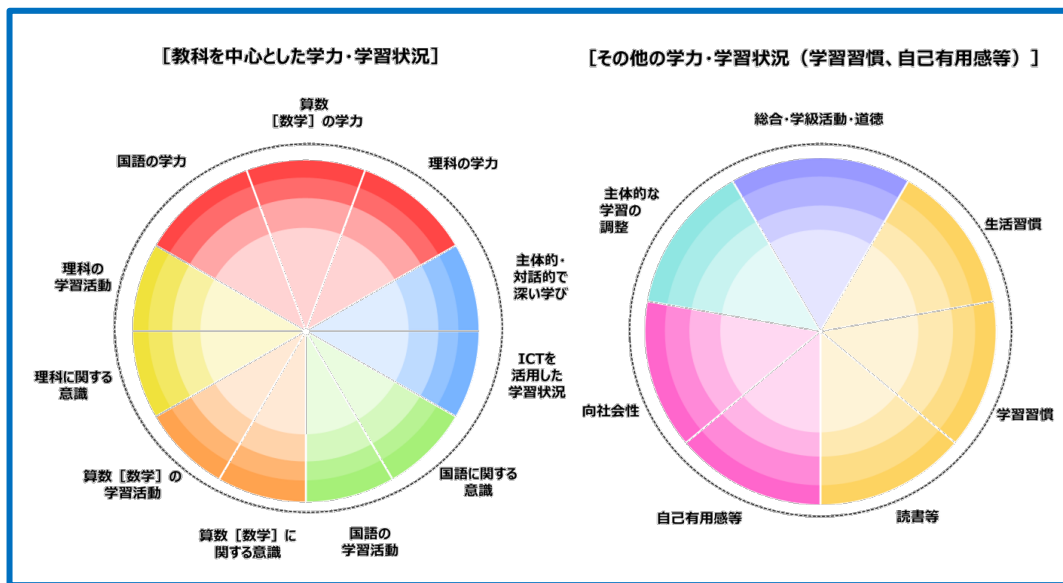
- 各学校において自らの児童生徒の学力・学習状況等を多面的な分析を行うことをねらいとして提供（平成21年度～）
- 令和7年度から、児童生徒の学力・学習状況をより細やかに分析し、特徴を把握しやすくする観点から、2つの結果チャートの領域構成と利用する児童生徒質問の項目を見直し、「都道府県・指定都市の結果チャート」を初めて公表。

＜教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童（生徒）質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童(生徒)質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	算数(数学)の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)~(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	国語の学習活動	(46)(48)~(51)
8	算数(数学)に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	算数(数学)の学習活動	(54)(57)~(59)
10	理科に関する意識	(60)(61)(63)~(65)
		小学校
		(60)(61)(63)~(66)
11	理科の学習活動	(62)(66)~(70)
		小学校
		(62)(67)~(70)
		中学校

※領域番号1~3については、各教科の全国平均正答率(中学校の領域番号3については全国平均IRTスコア)を基準として比較したものである。

※領域番号4~11については、「小学校児童(中学校生徒)質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。



＜その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童（生徒）質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童(生徒)質問 対応領域・質問番号
12	総合・学級活動・道徳	(40)~(43)
13	生活習慣	(1)~(3)
14	学習習慣	(17)(19)
15	読書等	(21)~(24)
16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
17	向社会的性	(8)(9)(11)(27)
18	主体的な学習の調整	(16)(36)

※領域番号12~18については、「小学校児童(中学校生徒)質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

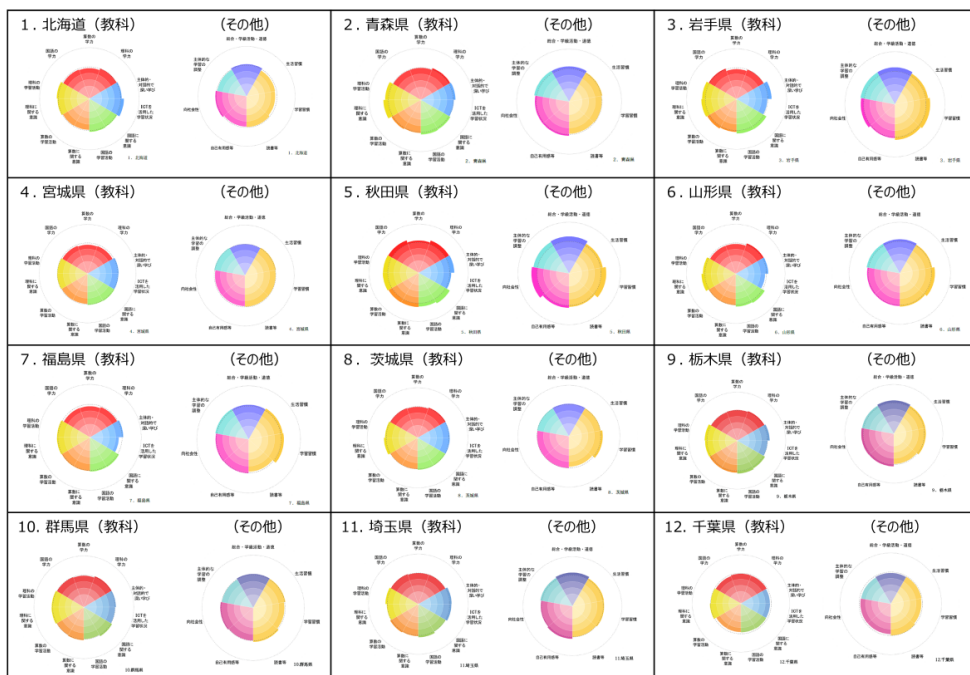
都道府県・指定都市別の児童生徒・学校質問調査の「領域別回答状況」の得点換算方法

- (1) 学校別に、領域ごとの質問項目回答割合から、肯定的な回答割合が高いほど点数が高くなるよう得点を算出。
- (2) (1)で学校別に算出した得点を全国平均が0、標準偏差が1になるように標準化する。
- (3) 当該都道府県（又は指定都市）内の算出の対象とする全学校について、(2)の数値の平均を算出する。
- (4) (3)で算出された得点に5.0を加える。

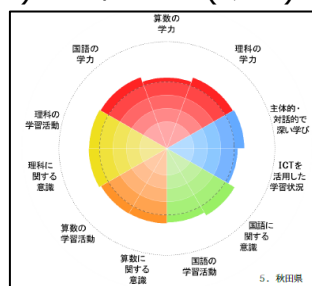
<参考：令和7年度の都道府県・指定都市の結果チャート>

①都道府県・指定都市結果チャート一覧

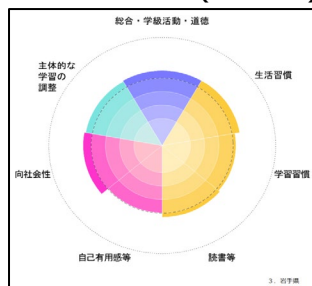
②都道府県・指定都市別ノート



(例)小学校 秋田(教科)



中学校 岩手(その他)



「国語に関する意識」の数値が高い

「向社会的性」の数値が高い

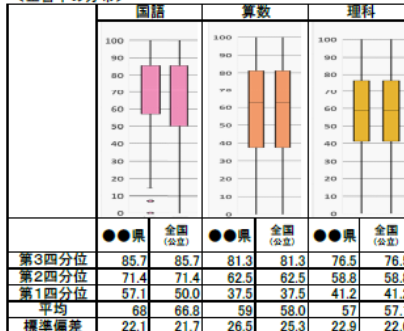
令和7年度 全国学力・学習状況調査 都道府県・指定都市別ノート

83.●●県 イメージ

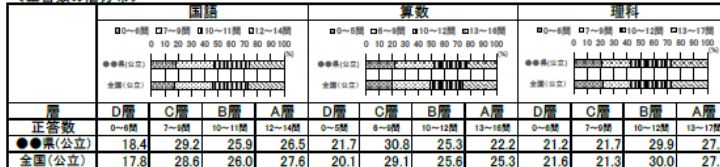
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>



<結果チャート> ※点線は全国平均を示している。

【教科を中心とした学力・学習状況】(全国基準)



【その他の学力・学習状況】(全国基準)



【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつき傾向と大きな差は見られなかった。
- ・D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・●●教科・●●教科について、全国の結果と比較して、D層の割合、バンド1の割合が多い結果となっている。他の教科につて、D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校(中学校)においては、「●●」や「●●」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「●●」や「●●」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

2. 令和8年度調査 結果チャートの方向性

今回改善・公表した、令和7年度の結果チャートの枠組みは維持しつつ、更なる改善に向けて、レイアウトや内容等について一部変更を行う。

